



第2回ふれあい人権講座

「夜間中学」

識字教室に学ぶ人たち

さまざまな理由で実質的に義務教育を受けていない方々が学び直す場として「夜間中学」や「識字教室」があります。スタートは戦災孤児を支援する心ある教師たちの取り組みから始まりました。戦後の復興とともに生徒数、学校数は減り、一時は国から勧告が出され廃止の危機にありました。しかし、存続の必要性を訴える活動によって現在、公立33校、ボランティアによる自主運営で20数校が開かれています。

今の夜間中学には、幼い頃、貧

困のために学校に通えなかった高齢者の方から、いじめなどにより不登校になった若者、外国からやってきて日本語の読み書きを学び、暮らしを創ろうとする人たち、など幅広い年齢、立場の方が集まっておられます。社会の変化によって必要性は再び高まっています。

講座では、ドキュメンタリー映画「こんばんはII」を視聴し、生徒さんたちの声を聴きました。学べることの喜び、ありがたさ、共に学び支えあう若男女の学友との深い友情が語られました。ことに外国から売られるように来日し辛苦の中から学びはじめ、自立を勝ち取ろうとする女性の「学ぶことは生き抜くこと」という言葉は胸に深く刺さります。

視聴後、人権教育サポーターの伊田哲朗さんが、兵庫県の高校教師として定時制高校や夜間中学に関わってきた経験を話されました。実質、教育を受けていなくても形式的に卒業証書が交付される慣例のため、正確な数字は把握されませんが、義務教育の未修了者は百数十万人とも言われ、現在は

約二千人の方が学び直しておられるとのこと。

厳しい背景を持つ生徒さんたち、特に日本で差別の対象とされることの多い朝鮮半島にルーツを持つ方々との出会いとふれあい、そうした方々を支える人たちが惜しみなく力を注がれる様子を伝えていただきました。

私たちの多くが漫然と受け止めている教育、学びの大切さ、教える側の信念の重みを思います。身近にも学びの場を必要としている方がおられるかもしれません。



▲神戸市の「識字教室」の様子

次回のふれあい人権講座

「人と人とのより良い

関係をつくるために」

デートDVを通して

日時 8月4日(火) 午後6時30分

会場 日南町人権センター

講師 米子人権擁護委員協議会

男女共同参画部会

未婚の交際関係にある人同士が、暴力をふるったり精神的な支配をしようとしたりすることをデートDV（恋人など親しい人からの暴力）と言います。このデートDVからお互いを理解し尊重しあうことの大切さを考えます。

8月の人権相談

行政相談のご案内

日時 8月7日(金) 午前9時〜12時

場所 子育て支援センター

☆事前の予約は不要です。

秘密は固く守られますので、お気軽にお越しください。

